

2. 海・街道・史跡を活かした 白子地区への再編計画

(1) 課題内容の概要

三重大学「建築設計製図Ⅳ」第1課題 「地区計画—海・街道・史跡を活かした白子地区への再編計画」

担当：松浦（出題）・浦山・浅野 TA：阿部・福原・森岡

協力：白子まちづくり講座（白子公民館）・鈴鹿市・白子の歴史文化を活かす会・Blanc-Co

1) 課題内容

鈴鹿市白子地区（近鉄の東側）では2012年度から白子公民館にて「白子まちづくり講座」が開講され、まちづくりのための様々な取り組みが積み重ねられてきた（「海・街道・史跡を活かした白子のまちづくりのための92のアイデア集」の製作、白子街道ウォークの開催、白子まち歩きマップの製作、白子景観資源マップの製作など）。白子地区は近鉄特急が停まる白子駅に隣接するアクセスの良さに加えて歴史的資源が豊富に残り、美しい海岸などの自然資源も有している。

本課題では、30年後を目処として、鈴鹿市白子地区の空間計画を構想する。白子地区全体の将来空間イメージは、「場所の特性に合った適切な土地利用に転換し、増加しつつある空き家・空き地を立地条件や空間の質に応じて都市的土地利用と自然的土地利用に計画的に転換していくことで、海・街道・史跡を活かしたまちへと再編していく」と想定することとする。また、コンパクトシティ（立地適正化計画）や事前復興まちづくりの観点から、微高地に立地する歴史的市街地に都市的機能を集約化することを計画の前提とする。建築の建て方のルール、オープンスペースの取り方・ネットワーク、伊勢街道や港との関係を考慮した建築の提案を期待する。

なお、本課題では、白子地区を以下の5つのゾーンに分ける。各ゾーンに2つのグループが担当するようにグループ間で調整すること。

2) 提出作品

- ① 空き家・空き店舗・空き地の現状分析と活用方策の提案
- ② ゾーン全体の屋根伏図
- ③ 伊勢街道沿いの連続立面図（現状と提案）
- ④ 地区計画・建築計画・外構設計
- ⑤ 地区模型

3) スケジュール

- ① 7月31日（金）出題・課題説明・スライドレクチャー（松浦）
- ② 8月7日（金）現地説明・現地調査
- ③ 9月18日（金）実測調査WS
- ④ 10月9日（金）空き家・空き店舗・空き地調査結果のまとめと活用方策の提案、ゾーン全体の屋根伏図、伊勢街道沿いの連続立面図（現状と提案）、実測調査結果
- ⑤ 10月16日（金）空き家・空き店舗・空き地調査結果のまとめと活用方策の提案、ゾーン全体の屋根伏図、伊勢街道沿いの連続立面図（現状と提案）、地区計画・建築計画・外構設計の発表その1
- ⑥ 10月23日（金）空き家・空き店舗・空き地調査結果のまとめと活用方策の提案、ゾーン全体の屋根伏図、伊勢街道沿いの連続立面図（現状と提案）、地区計画・建築計画・外構設計の発表その2
- ⑦ 10月30日（金）中間講評会
- ⑧ 10月31日（土）学外向け中間講評会@レーモンドホール
- ⑨ 11月6日（金）地区計画、建築計画、外構設計の発表その2
- ⑩ 11月13日（金）地区計画、建築計画、外構設計の発表その3
- ⑪ 11月26日（木）提出（図面・模型）
- ⑫ 11月27日（金）最終講評会
- ⑬ 12月8日（火）～13日（日）地元発表会・展示会

寺家ゾーン

子安観音寺を中心として迷路状の路地が巡らされているゾーン。道路沿いに小さな庭を持つ住宅が特徴。伊勢型紙職人の住むまちとして知られている。



白子Aゾーン

白子小学校の西側の伊勢街道沿いに広がるゾーン。歴史的建造物（築5年以上）が多く残されている。格子戸のある平入りの町家建築が特徴。



対象地区の概要

江島Aゾーン

白子駅前通りから東に広がるゾーン。伊勢街道沿いに鰻絵のある町家が残されている。勝速日神社の春の例大祭が開催されることで有名。

沿いに
(築 50
。格子
特徴。



白子Bゾーン

白子駅前通りから西
に広がるゾーン。近
鉄白子駅や白子港が
隣接する。



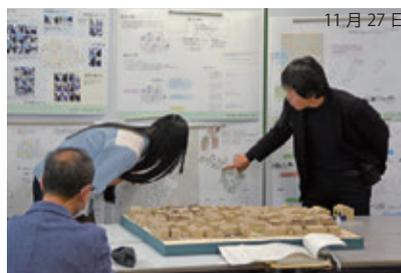
るゾー
る町家
の春の
名。

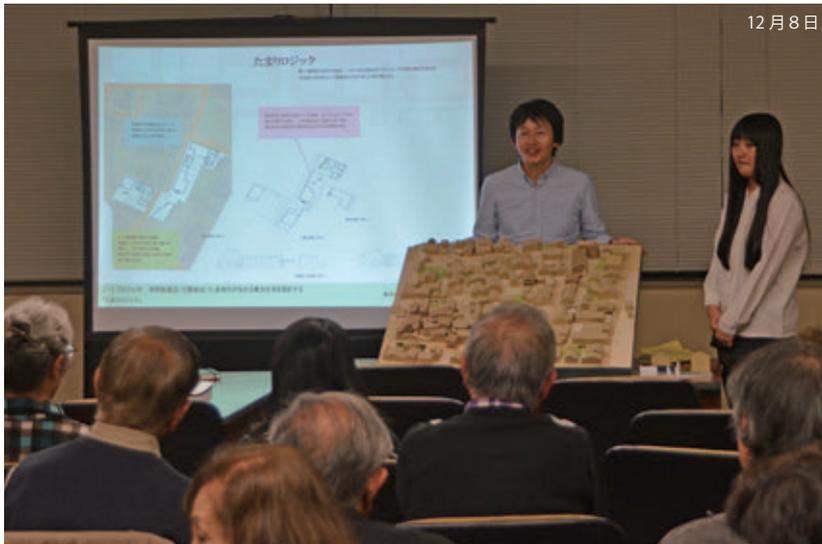


江島Bゾーン

最も北に位置するゾーン。江島
若宮八幡神社の江戸祭、六体地
蔵の地蔵盆などの祝祭が開催さ
れることで知られている。







三重大学工学部建築学科3年生による地元展示会・発表会 海・街道・史跡を活かした白子地区への再編計画

白子駅

白子港

三重大学工学部建築学科3年生が鈴鹿市白子地区の将来像を自由な発想でデザインしました。多数のご来場をお待ちしています。

伊勢街道

地元 展示会

12月9日(水) ~ 13日(水)
午前8時半~午後5時 (13日は午後4時まで)
会場: 鈴鹿市役所1階市民ギャラリー
三重県鈴鹿市神戸1丁目18-18

地元 発表会

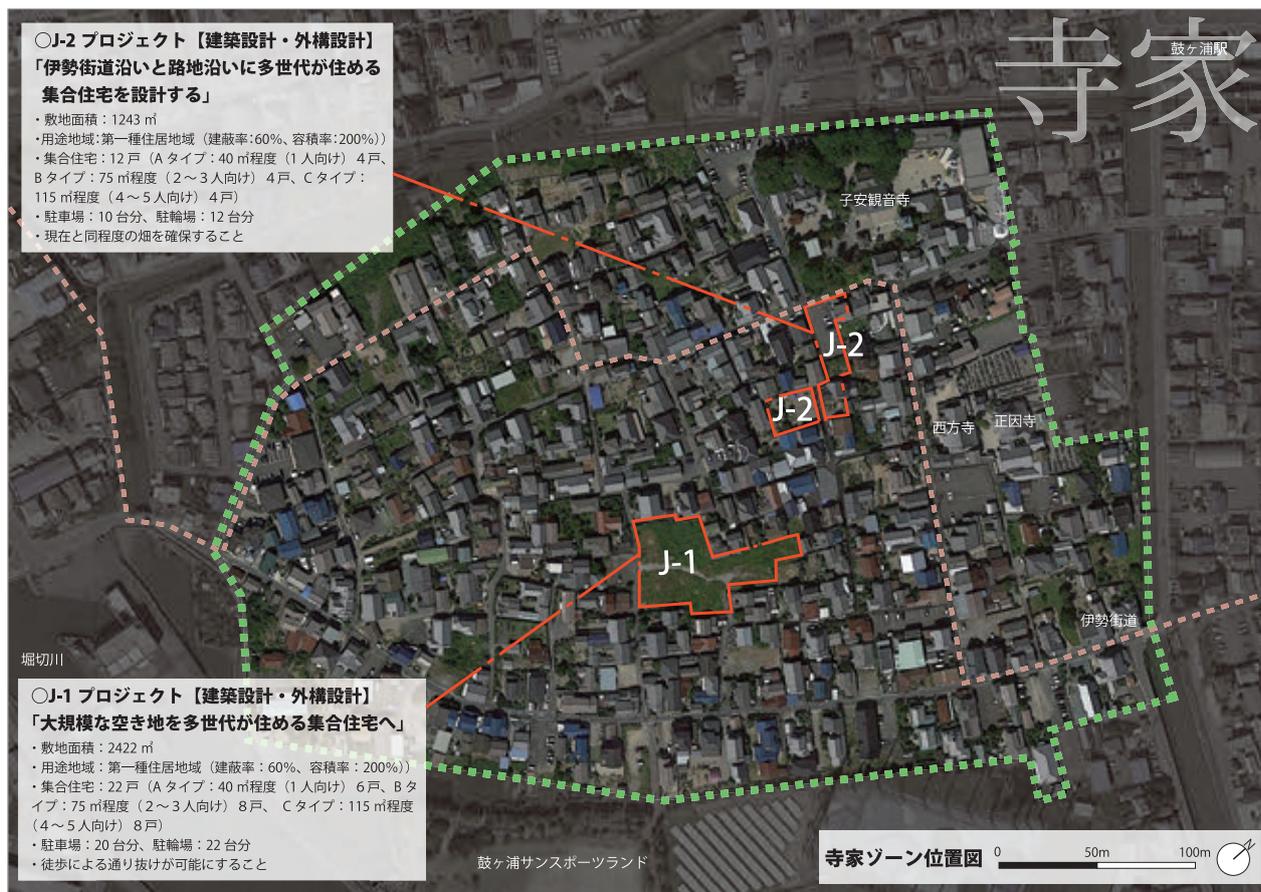
12月8日(火) 午後6時半~9時
会場: 鈴鹿市役所12階1202小会議室

主催: 三重大学工学部建築学科
・白子公民館
その他: 入場無料・申し込み不要
問い合わせ先: 059-231-9477
matsuura@arch.mie-u.ac.jp (担当: 松浦)

*この発表会は三重大学工学部建築学科の授業・建築設計製図Ⅳ「地区計画」の課題作品を発表するものです。従って、実現を前提としたものではなく、仮想の計画内容となります。

2015年12月8日(火) - 13日(日)

(2) 寺家地区



寺家地区「ハムステーク」

柴田美紀・松野有希紘・山崎巧太



寺家は“人が住む”ためのまちです。主な生活動線として路地を使い、独自のコミュニティをつくりあげていった。家と家の間を縫うようにどこまでもつづくながい道。それはただの道ではなく、住民の暮らしのカタチであった。しかし、現在の路地は路地としての機能を失いたただの道となってしまっている。かつて存在した暮らしのカタチをよびもどし、暮らしの音が鳴り響くまちを提案する。路地は住まいと町の間にある境界であり、生活のはみ出し空間として住まいの延長にある外部である。住民は路地との関わり方によって他人との関係を選択できる。道路でありながらも車が通ることを想定しておらず、また通る者も限られているからこそ、住人は家から生活をはみ出させ互いの暮らしを共有する。路地での暮らしの共有は少数の世帯になるが、はりめぐらされた路地は小さな共有を連続させ、寺家全体を繋ぐ大きなコミュニティをつくりあげる。こうしてできた路地コミュニティは場所を問わず住民の暮らしを垣間見れる寺家の姿をつくりだしていく。



暮らしの音でつながるまち

～寺家の特徴をふまえた新しい寺家スタイルの提案～

1. 寺家と路地

寺家は“人が住む”ためのまちである。主な生活動線として路地を使い、独自のコミュニティを作りあげていた。家と家の間を縫うようにどこまでもつづなぐ路地。それはただの道ではなく、住民の暮らしのカチチであった。しかし、現在の路地は路地としての機能を失いつつある道となつてしまっている。かつて存在した暮らしのカチチをよびと、暮らしの音が再び響くまちを提案する。

路地の機能

住まいと街の間にある境界。生活のはみ出し空間として、住まいの延長にある外部。路地との関係性によって他人との関係を定義できる。

路地で生まれるコミュニティ

玄関を出てすぐ見れる空間。道路でつながるがクルマが通ることを想定しておらず、また通る者も限られている。だからこそ、住人は家から生活をはみ出させ互いの暮らしを共有する。路地での暮らしの共有は少数の世帯になるが、はりめぐらされた路地は小さな共有を連続させ、寺家全体を繋ぐ大きなコミュニティをつくりだせる。こつてできた路地コミュニティは場所を問わず住民の暮らしを仲間見れる寺家の姿をつくりだした。

	空き地		4m幅以下の道路=かつての路地
	畑		路地の機能を果たしている道路
	空き家		路地の機能が欠落している道路
	寺社・蔵		景観が良いところ
	歴史的建造物		景観が崩れているところ
	駐車場		空き地・空き家が密集しているところ

2. 路地の現状

現在の路地は大きく6種類に分けることができる。

通り道としての



大きくセクトバックしている住戸。道に対して完全に閉ざしている住戸。整備されており、整った町並みではあるが路地特有の生活のはみ出しが見られない。ただの通り道となっている。

空き地に面している



道半ばに閉じた土地がある。整備がされていないので景観がよろしくない。

空き家に面している



道に面して空き家が建っている。

ながく続く道



砂利敷、コンクリート舗装、草地など多様な駐車場。道の途中にあるため、景観がよろしくない。

駐車場に面してる



路地の機能をもつ

昔ながらの住戸が向かい合っている。道にプランターなどがはいてあり、暮らしを感じることができる。

現状分析

柴田美紀・松野有希絃・山崎巧太

暮らしの音でつながるまち

～寺家の特徴をふまえた新しい寺家スタイルの提案～

3. 路地の分析

現状をふまえて路地以下の3タイプに分ける。

- 良い路地：路地の機能を全開する道路
- ノーマルの路地：ただの通り道としての道路
- 手入れの必要とされている路地：景観を失っている。路地としての連続性を断絶している。

Good、Normalをふまえて、現状の寺家コミュニティマップを作成する。

- 路地コミュニティが存在するところ
- 従来の住宅群

路地コミュニティが崩れているが、空き地・空き家がコミュニティの連続性を保ち、路地コミュニティの核として残っている。路地コミュニティの核として残っている路地コミュニティは、その核を核として、路地コミュニティの核として残っている。路地コミュニティの核として残っている。路地コミュニティの核として残っている。

路地コミュニティの核として残っている路地コミュニティ



Good

Normal



路地が機能しているところには人の歩みも感じられ、手入れが行き届いているところが多い。歴史的建造物等、まっつでの両面がはみ出して景観が保全されている。



空き地、空き家が軒並みで目立っているため路地のコミュニティが崩壊している。道沿いに新築される路地コミュニティが元々ない。



4. 提案と2つの操作

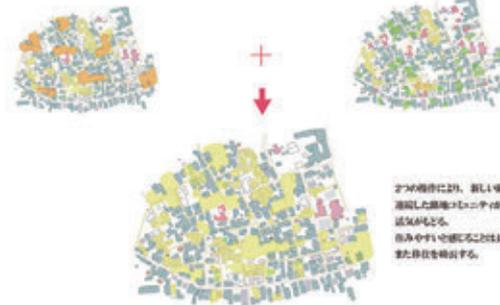
提案：今あるコミュニティとコミュニティをつく新たな空間を挿入する

大きい操作

かつてある空き地・空き家のなかまに新しい路地を挿入する

小さい操作

点状する空き地・空き家、手入れが行き届いていないところに対する操作



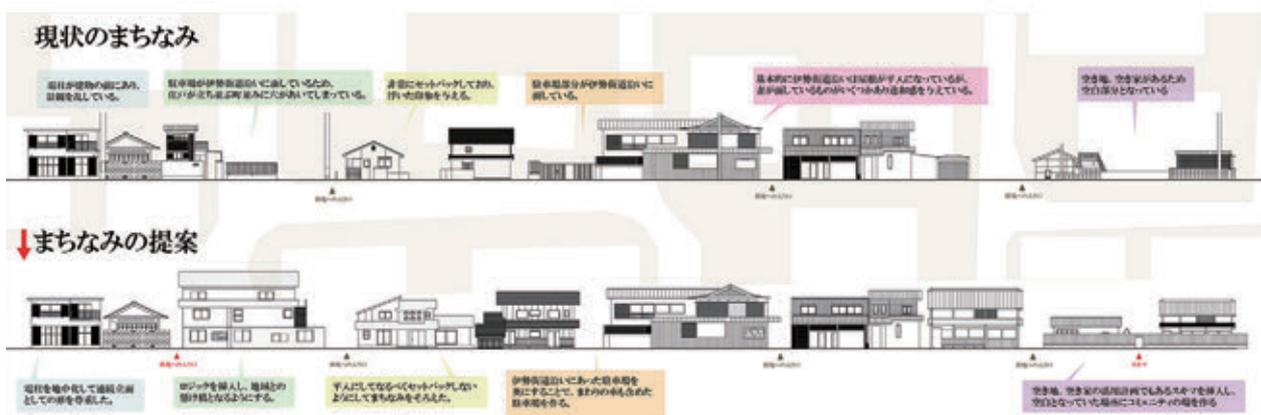
2つの操作により、新しい路地コミュニティが生まれ、消滅した路地コミュニティが再び元々やすきを保ち、また活性化もできる。おみせやいせを感じることは長く保ち続けることを期待させ、また住居を確保する。

活用計画

柴田美紀・松野有希絃・山崎巧太



J-2 プロジェクト：伊勢街道沿いと路地沿いに多世代が住める集合住宅を設計する「たまりロジック」 柴田美紀・松野有希・山崎巧太



- ### 景観計画
- 一帯の魅力化
- 寺家地区では路地が生活の中心となっていて、地区全体に路地が張り巡っている。その数値であり、生活の場を延長である路地を整備し、魅力的なものにしていく。
- 1. 伊勢型紙を用いた塀**
白子地区は伊勢型紙の伝統がある。寺家地区では職人さんやお弟子さんが多く住んでいる地区でもあるので、華やかな伊勢型紙による路地の魅力化に作り文化を継承させるためにも伊勢型紙の塀を入れていく。
 - 2. 脱色アスファルト**
政策的な操作として、プロジェクト部分とその周辺に脱色アスファルトを入れ、敷地内の段差をなくし、1つの通り道としての機能を持たせ、入りやすくする。そこからまわりへと広げていき、寺家全体がよい雰囲気のある路地のつながりとなっていくことを期待する。
 - 3. 私有地の路地化**
路地の一角にベンチを設けることで長い路地の中で休んだり、立ち止まって会話が生まれたり、コミュニティが生まれ人の声がかえってくるような地区になっていく。また、塀の角を切り取ることで少し大きな空間が生まれ、今後様々な活用がされることを期待する。
 - 4. まちなみの約束**
 - 新しい住戸に閉じてはできるだけセキバックしない
 - 駐車場は通り沿いを除き、まとまったところを作る
 - コンクリート塀は防災上危険であるので、生垣と植樹に少しずつ変えていく。

連続立面・景観計画 柴田美紀・松野有希・山崎巧太



全景



大規模な空き地を多世代が住める集合住宅へ「ひとロジック」



伊勢街道沿いと路地沿いに多世代が住める集合住宅「たまりロジック」

寺家地区「okk」

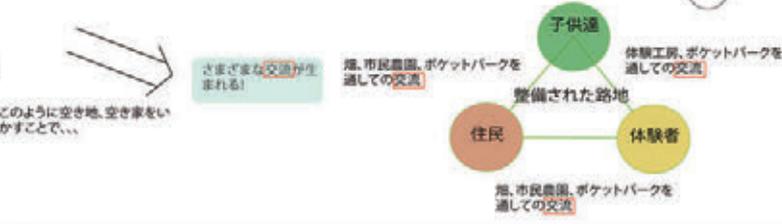
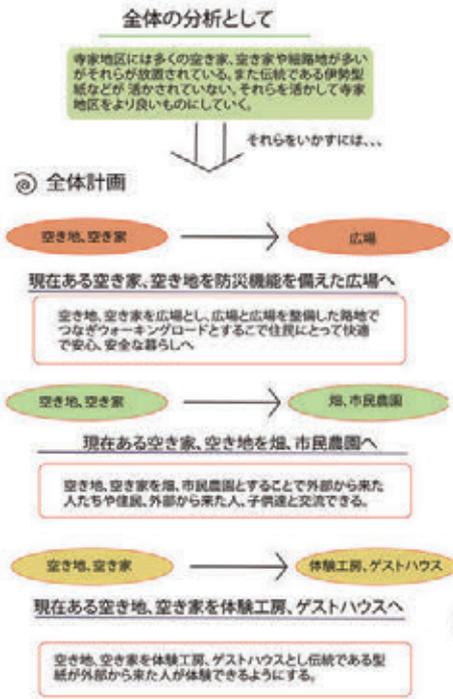
広場～路地がつなぐ 寺家ネットワーク

大竹理人・加藤心彩・川瀬遼平



私たちがこの寺家地区の地域計画をする際にまず「防災」と「交流」を大切にしました。この寺家地区というのは細い路地が多く、消防車が通れない道が多いなど防災面で問題がありますが、人々の安心な交流という側面から考えると魅力的とも言えます。そこで、細い路地を無くしていくのではなく、人々のウォーキングロードとし、また、地域全体に多く点在する空き地・空き家を、防災の機能の備わったポケットパークに作り変えることにより地域全体の防災機能と住民同士の交流の向上を考えました。さらにポケットパーク内に入口・出口を作ることにより、思わず立ち寄りたくなるような景観を目指しました。線路沿いの広い空き地に対しては共用の畑にすることで農業体験を行い、また近くに地域の特色である伊勢型紙の体験の場なども設け地域の活性化や、外部からの体験者・子供たちへのアプローチも意識しました。広場を中心とした、「安全」と「住民・子供達・体験者それぞれの様々な関わり合いの形」を作り上げました。

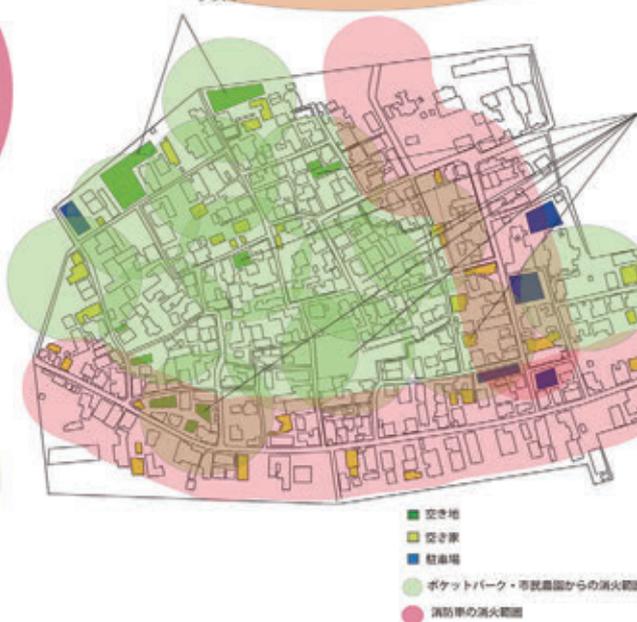
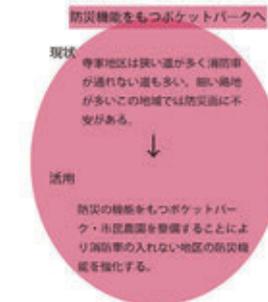
広場
～路地がつなぐ寺家ネットワーク～



寺家ゾーン：屋根伏せ、現状分析、全体計画
ひろば ～路地がつなぐ寺家ネットワーク～

大竹理人 加藤心彩 川瀬遼平

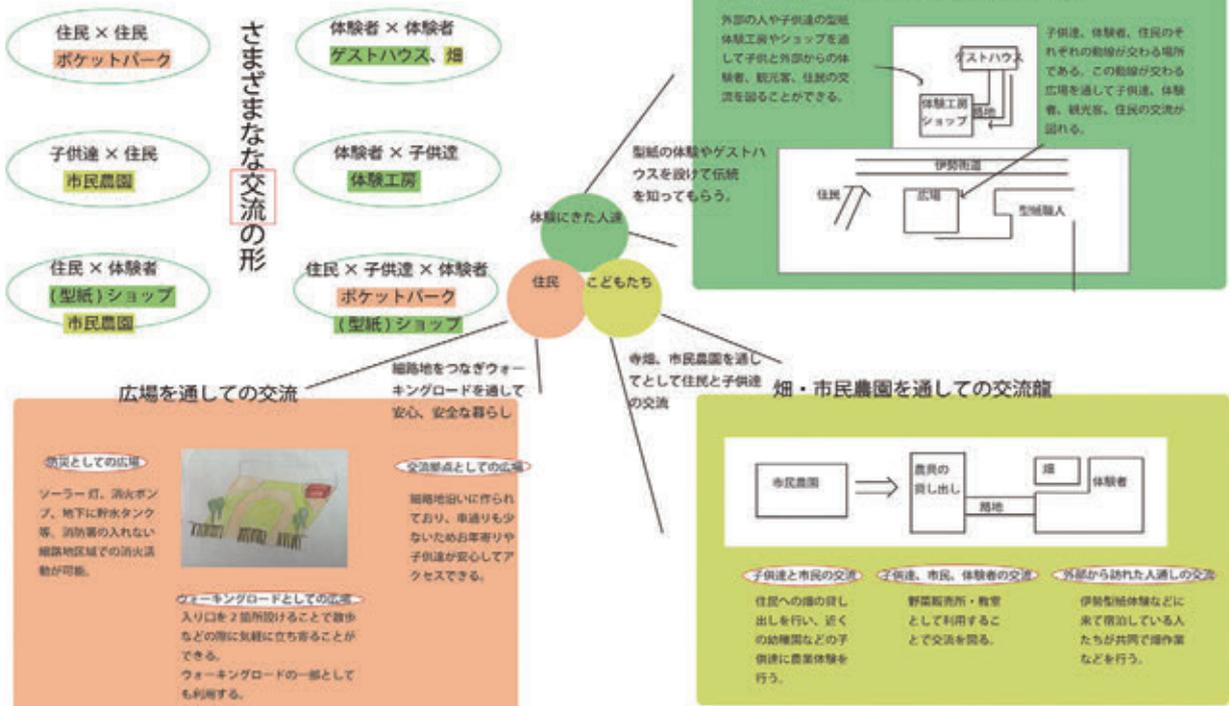
防災機能をもつ
ポケットパーク・市民農園の整備



寺家地区：ポケットパークから広がる防災プロジェクト

大竹理人 加藤心彩 川瀬遼平

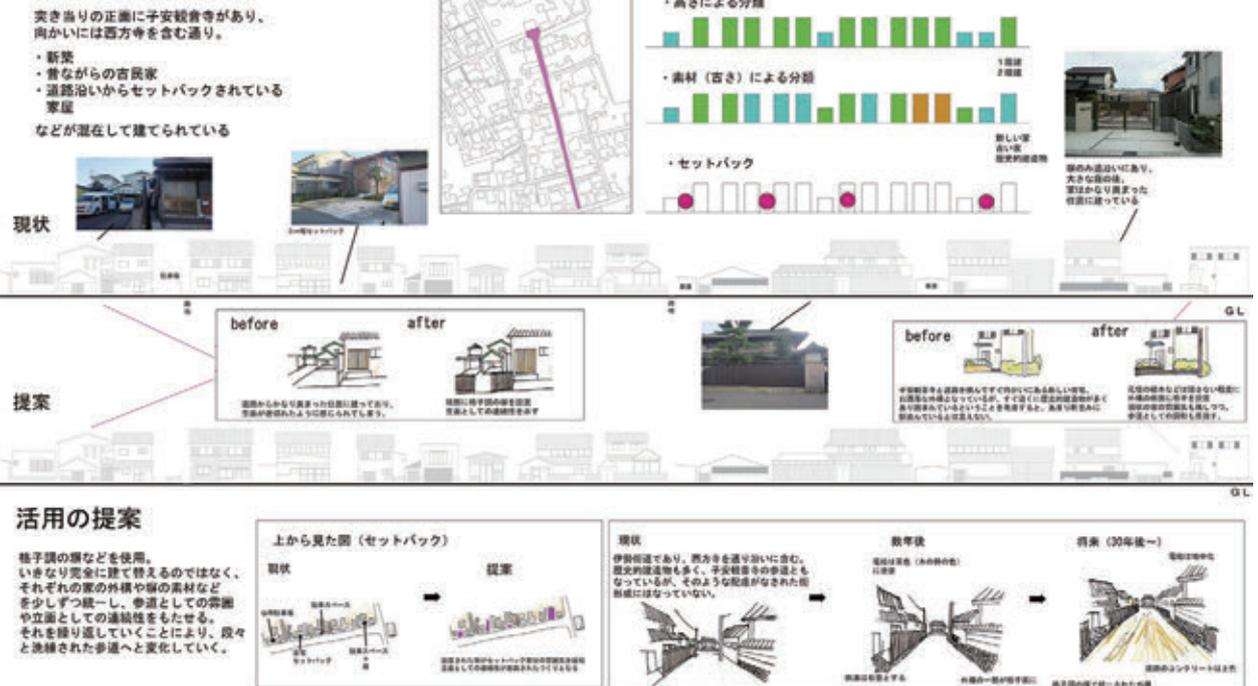
地域内外の人々が交流できるコモンスペースの整備



寺家ゾーン：活用方策の提案
地域内外の人々が交流できるコモンスペースの整備

大竹理人 加藤心彩 川瀬遼平

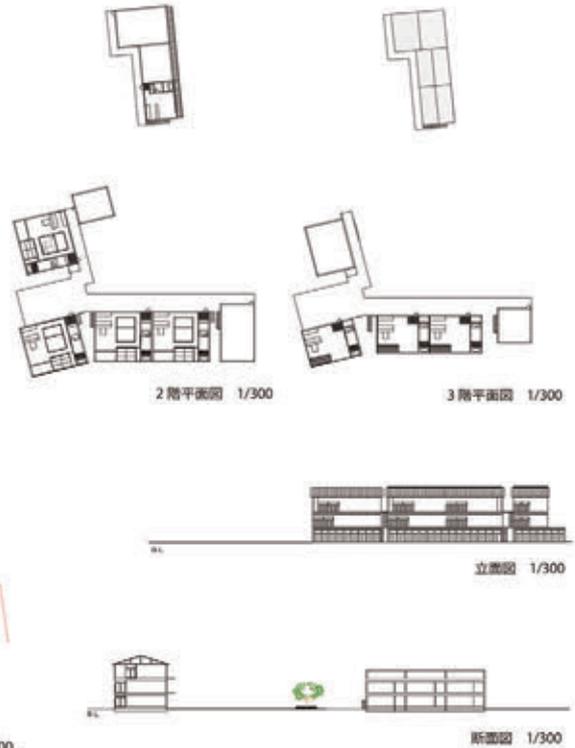
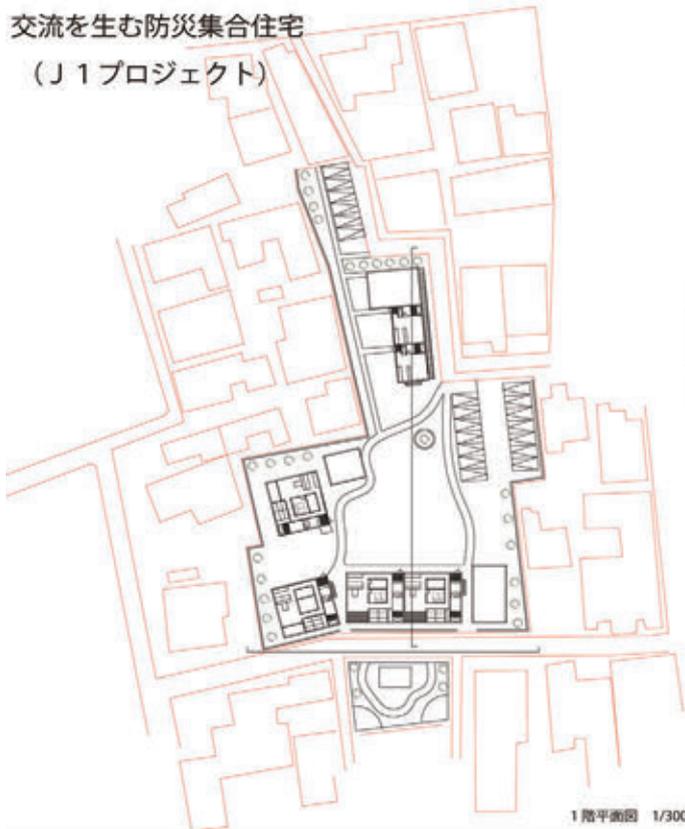
表の顔としての参道空間の整備



伊勢街道沿いの連続立面図(現状と提案)
「表の顔としての参道空間の整備」

大竹理人・加藤心彩・川瀬遼平

交流を生む防災集合住宅
(J1プロジェクト)



J1プロジェクト：交流を生む防災集合住宅

大竹理人 加藤心彩 川瀬遼平

表のみちから裏のみちへ
(J2プロジェクト)

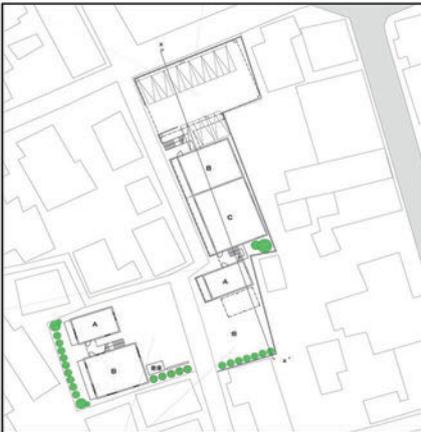
子安観音寺を含む伊勢街道の道から、歩いて巡る細路地への引き込みをはかる。

みち
道(伊勢街道)から路(細路地)へ

細路地の側溝には拡張部に石畳を敷き、街道の雰囲気も残しつつ路地内の雰囲気へと変化していく。また、畑を住宅で覆うような配置にし、また、横に住民が共有で使えるようなオープンスペースを置くことによって、住民同士が畑作業をしたり職めたりしながら交流が出来るようになっている。

道の路地を歩いて出る細路地の入口としての役割を担す
車を多量に駐車できないイメージ
駐車場・駐輪場は街道のすぐ横に設置

伊勢街道沿いの立面として
窓際を彩るために
格子戸の木扉を設置



道路拡張後も
細路地としての雰囲気
を残すため、
拡張部の素材を石畳とする

住民が共同で使える畑を
住宅で囲むように配置
畑にあるオープンスペースでは、
住民が広く農耕や、住民同士の交流空間
となる

1階平面図 S=1/300



住戸タイプ
A：1人用
B：2～3人用
C：4～5人用

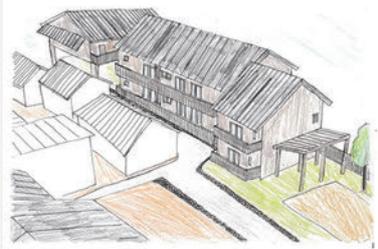
街道沿いに駐車場を設けているが、
立面としての雰囲気を残すため、上に
住宅を置くことでフェイク感となっている

屋根形状

道路に対して屋根の平面を向ける形状

外構・塀

プロジェクトプラン内に出てくる屋中庭は
連続立面図提案の際に使用した素材(格子戸の壁)
と合わせる
一子安観音寺村の伊勢街道の立面として
のプランが出来上がる



外観パース

J2プロジェクト：伊勢街道沿いと路地沿いに多世代が住める集合住宅
「表のみちから裏のみちへ」

大竹理人・加藤心彩・川瀬遼平



交流を生む防災集合住宅



伊勢街道沿いと路地沿いに多世代が住める集合住宅「表のみちから裏のみちへ」

(3) 白子 A 地区



白子 A 地区「AT-M」 現代に無き良さを求めて ～誇り高き町並みへ

伊藤彰利・内藤貴之・森山雅大・東野一星



ここ白子 A 地区は、歴史的な町家が多く残る地区である。しかし、現在は空き家・空き地・増築が増え、街並がくずれつつある。私たちは、この地区を計画するにあたり古き良き町並みを守りつつ、暮らしやすいまちづくりを目指す。そこで、歴史ある残すべき建物は残しつつ町並みを取り戻すため、新築や空き家のリノベーションの提案を行う。

1. 空き家リノベーション実験住宅 『地域が見守るこどもの家』

近くには小学校・幼稚園があり、放課後や休日に子どもたちが楽しく過ごし、また地域の人に協力してもらいそろばん教室や書道教室など学びの場として利用できる空間をつくる。

2. 新築実験住宅 集合住宅の提案 『マチとつながるヒトをつなげる』

町並みが残る伊勢街道沿いに新たに建てる集合住宅として、街道沿いのデザインを考えつつ、新たな住宅の形を提案する。地域のヒトとのつながりの場をつくり、さまざまなヒトとの交流を図る。

現代に生き良さを求めて ～誇り高さ街並みへ～

1. 地区の特徴

①白子小学校・白子幼稚園
白子小学校校区の地域で
自子駅、イオン等、交通、生活に
便利である。

②久留美神社・地蔵寺

③歴史的街道

2. 伊勢街道沿いの町並み

・道幅に対しての交通量が多い
・透切れ透切れに立ち並ぶ住宅
・町屋住宅と現代住宅が入り混れている

伊勢街道沿い
町並みの保全・改修

3. 空き地・駐車場

伊勢街道沿いから一本離れた道には
空き地や駐車場、畑等が多くみられる。

● 畑
● 空き地
● 駐車場
● 歴史的町屋
○ 空き家

現状分析:今ある町の良さと問題点
古き町並みの良さを残すために

伊藤彰利・内藤貴之・東野一星・森山雅大

現代に生き良さを求めて ～誇り高さ町並みへ～

伊勢街道沿いの町屋

特徴

- ・木造2階建て
- ・平入りの玄関
- ・透子格子
- ・落ち着いた色合い

現代において
失われつつある町並み

現状

- ・伊勢街道沿いの交通量が多い
- ・建物の老朽化
- ・室内の日当たりが悪い
- ・無計画な増改築

問題点

- ・景観の破壊
- ・暮らしにくさ
- ・空き地、空き家の増加

改善提案

- ・伊勢街道を歩行者専用道路へ
- ・交通量の分散、道路の整備
- ・駐車場の整備
- ・違和感ある建物の規制・改修
- ・日当たりを考慮した暮らしやすい建物の配置

伊勢街道を中心とした断面から見る移り変わり

かつての断面
現在の断面
数十年後の断面

現状連続立並屋
数十年後連続立並屋

現状分析・活用計画:町の財産の活用と問題点の改善
古き町並みを生かした住みやすい町の提案

伊藤彰利・内藤貴之・東野一星・森山雅大

現代に生き良さを求めて

～誇り高い街並みへ～



現状屋根伏図

古き良き町並みを守る + 暮らしやすいまちづくり

歴史ある残すべき建物は残しつつ町並みを取り戻す

町並みにある新築住宅の提案 並み家や町家のリノベーションの提案



数十年後屋根伏図

活用計画：屋根伏図

未来の伊勢街道沿いの提案

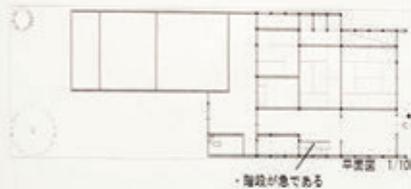
伊藤彰利・内藤貴之・東野一星・森山雅大

地域が見守るこどもの家

“Before”

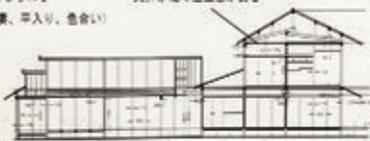


・納屋 取り壊して廊下として利用



・階段が急である

古い町並みが感じられる
(透き様子、切妻、平入り、色合い)



断面図 1/100



正面立面図 1/100

・1階は、旧納屋からなるこどもと家族のための居場所を創出して利用し、休日や家族で遊ぶに集まる施設として使われ、地域の人々の交流を促す。

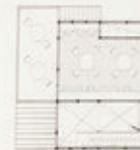


・敷地の真にラウンジをつくりヒロモリの歴史的な家と対比させる。



吹き抜け土間から見たラウンジスペース

“After”



2階は軒下で落ちついた空間 (学習、読書など)

土間は地域の人から学べる場 (そろばん、書道など)

・吹き抜け先の2階の壁はガラス張りにして眺望しつつ

・お互いに様子が見えるようになる。

・1階は地域の人と交流の待てる空間 (本読み、昔ながらの遊び)

お互いをガラス越しに見通しをよくする

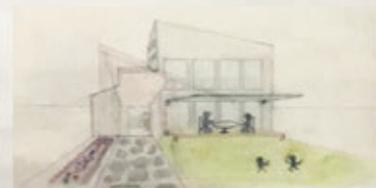


断面図 1/100

・通り土間で中庭まで視線が通る。



断面図 1/100



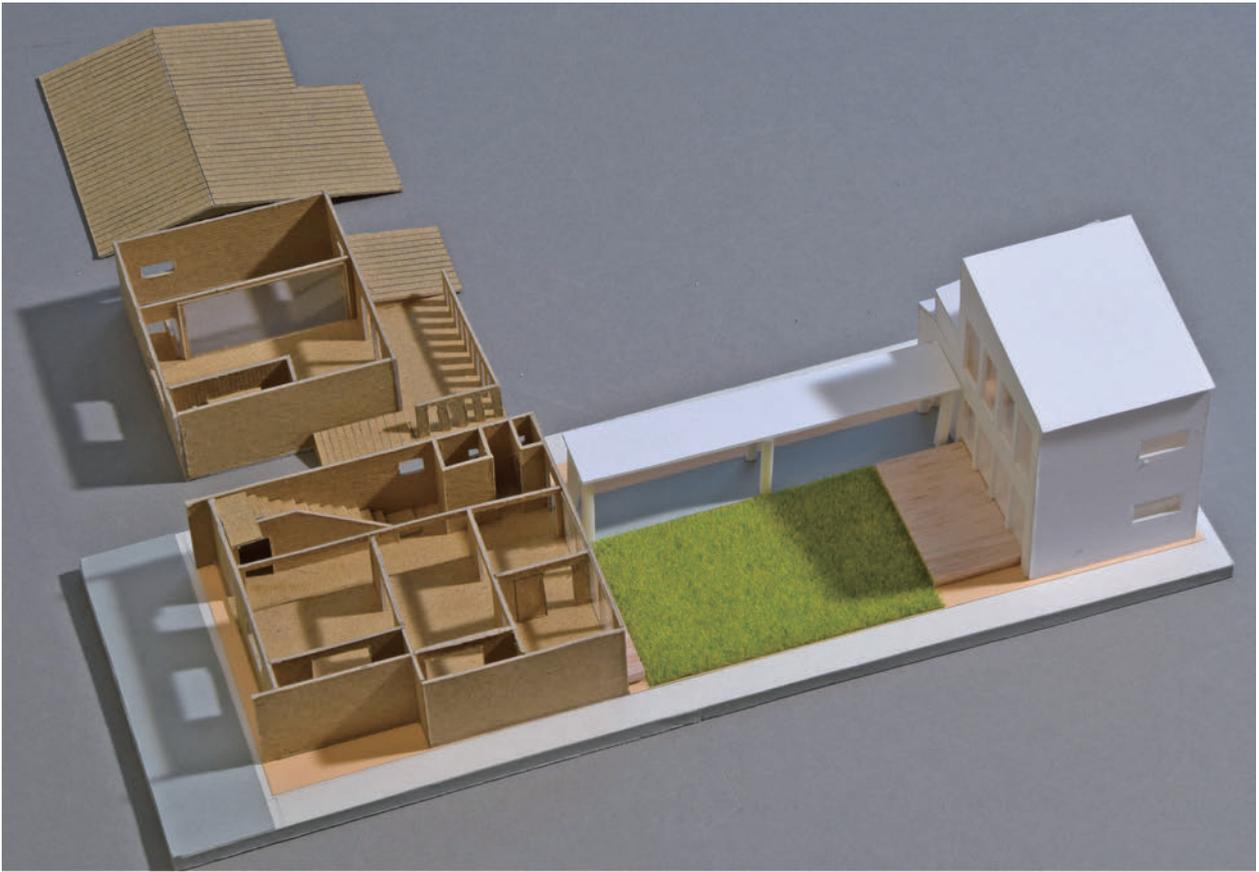
2014年11月10日撮影、伊藤彰利

地区計画：プロジェクト おもちゃの家ヒロモリ 改修

伊藤 彰利・内藤貴之・東野一星・森山雅大



おもちゃの店ヒロモリ改修、街区内に共有の駐車場を整備

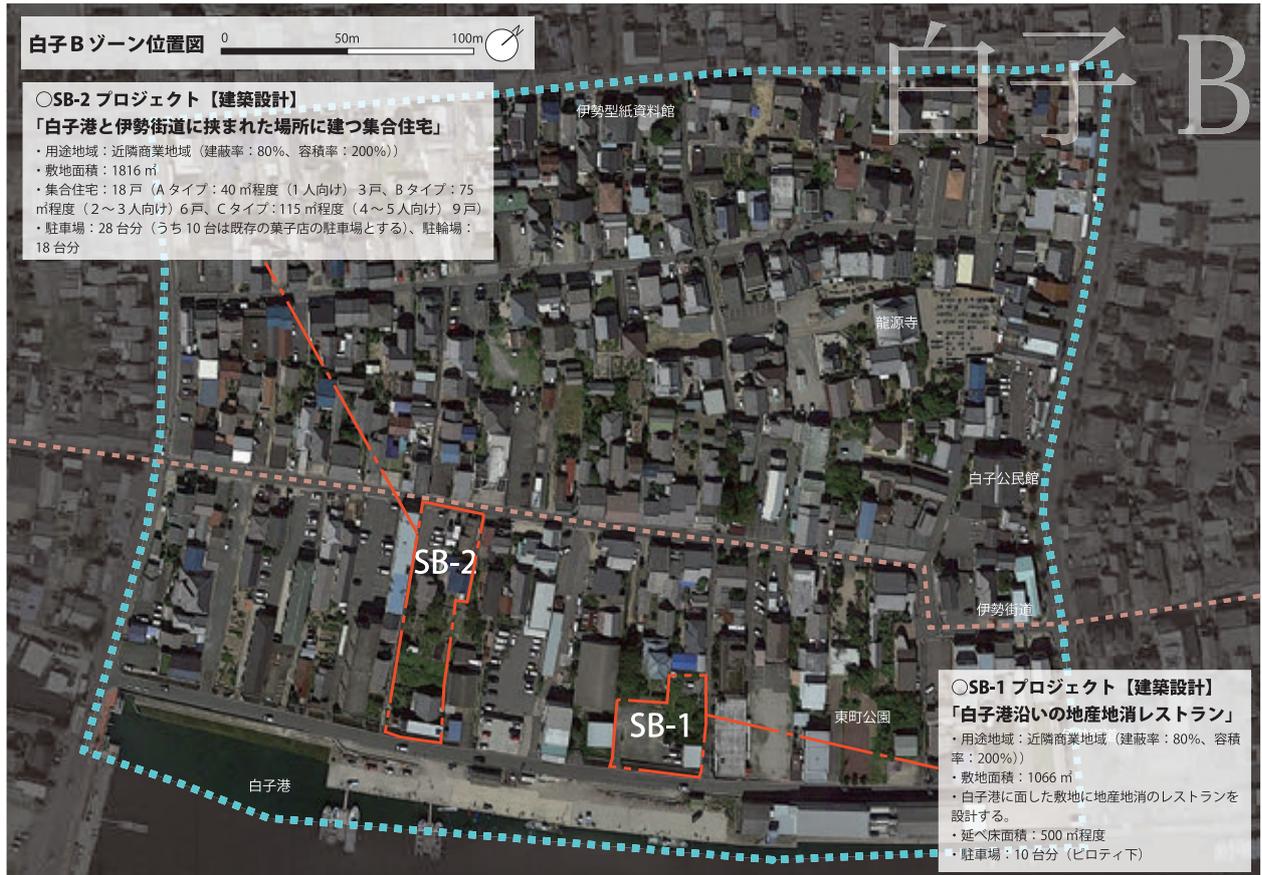


おもちゃの店ヒロモリ改修



集合住宅

(4) 白子B地区



白子B地区「Y K K」

路地でつながる白子の町

熊谷尚輝・近藤研人・山下祐輝・安井翔哉



白子B地区には港と歴史的町並みという2つの大きな個性がある。その2つの個性につながりがなく、町全体としての賑わいがあまり見られない。そこで私たちは、港と町並みをつなぐ2本の路地に着目し、路地に面したレストランと集合住宅のプロジェクトと合わせて設計することで、町全体に大きな賑わいをもたらし、港や町並みの魅力を最大限に活かすまちづくりを計画した。レストランは港の眺望を活かし大きな集客力をもつものを設計し、レストランに接する路地は、空き家・空き地を活用しながら人通りが多く活気のある空間にする。集合住宅は港側と街道側に2つの顔を持たせ、デザイン的にも機能的にもまちに馴染むものを設計し、接する路地は集合住宅と一体感をもたせ、室外機やガスボンベなどを隠すことで、シンプルで落ち着いた空間にする。

港+街道=∞

港と街道のそれぞれの魅力を大きくすると同時に、二つのあいだの路地を歩きやすく、人を引き込むものにする事で、ただの足し算よりも大きな魅力にかえていく。



屋根伏せ図 1:1000

- ① 空き家を改修し、伊勢型紙資料館と連携し、インテリアの展示・体験の場を提供する。アートの一面も持たせる。
- ② レストランと①の空き家に挟まれている空き家を解体し公園を設置する。
- ③ 木に囲まれた駐車場を設置し、港側の景観を損なわずに白子に訪れたひとの駐車スペースを確保する。

路地 集合住宅

集合住宅・休憩所を設置し、地元民が使いやすい路地にする。



SB-2 プロジェクト：路地につながる白子の町
活用計画

熊谷尚輝・近藤研人・山下祐輝・安井翔哉

港+街道=∞

港と街道のそれぞれの魅力を大きくすると同時に、二つのあいだの路地を歩きやすく、人を引き込むものにする事で、ただの足し算よりも大きな魅力にかえていく。



屋根伏せ図 1:1000

- ① 空き家を改修し、伊勢型紙資料館と連携し、インテリアの展示・体験の場を提供する。アートの一面も持たせる。
- ② レストランと①の空き家に挟まれている空き家を解体し公園を設置する。
- ③ 木に囲まれた駐車場を設置し、港側の景観を損なわずに白子に訪れたひとの駐車スペースを確保する。

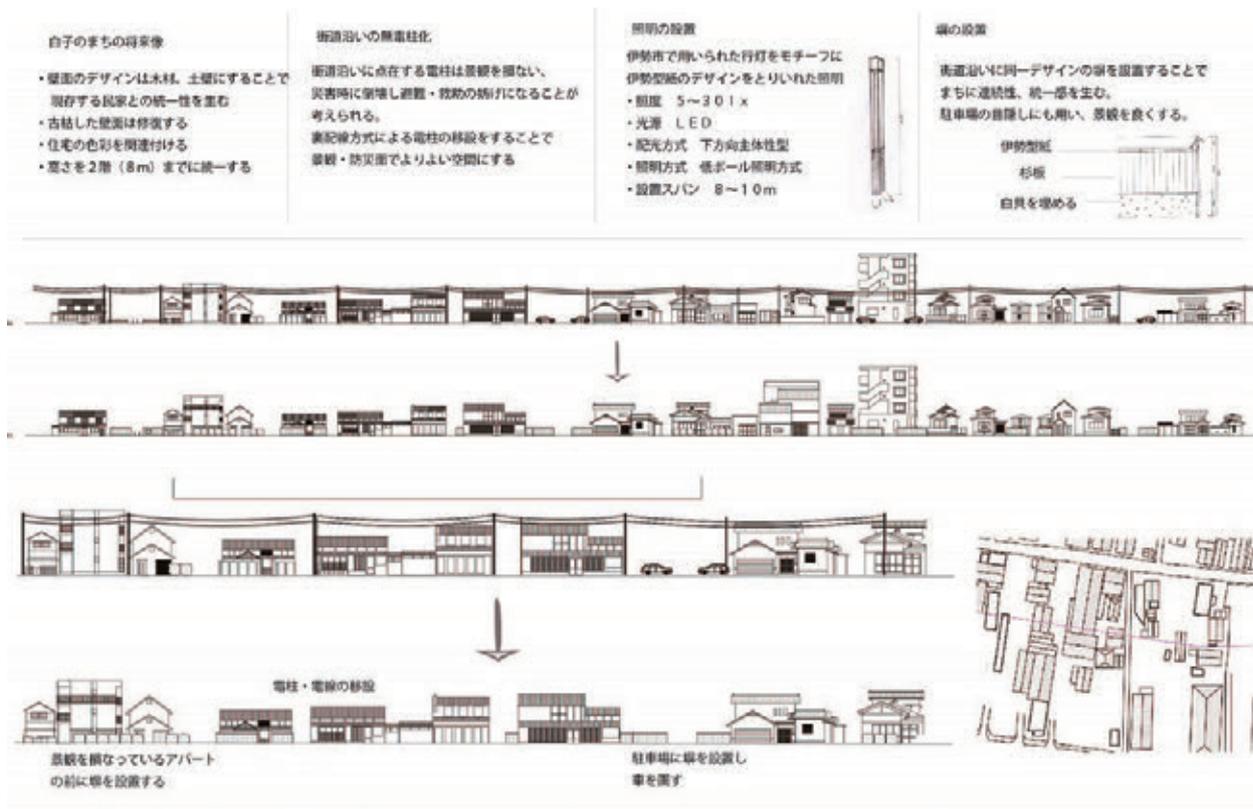
路地 集合住宅

集合住宅・休憩所を設置し、地元民が使いやすい路地にする。



SB-2 プロジェクト：路地につながる白子の町
活用計画

熊谷尚輝・近藤研人・山下祐輝・安井翔哉



SB-2 プロジェクト：路地でつながる白子の町

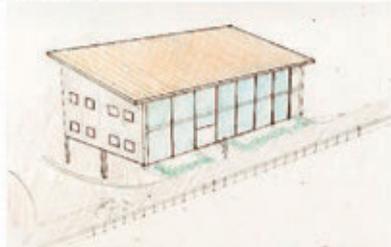
熊谷尚輝・近藤研人・山下祐輝・安井翔哉

連続立面図

設計趣旨

白子に賑わいをもたらすための核となるレストランを設計する。港に面した立地を最大限に生かし、眺望を楽しめるような工夫をすることで、大きな集客力をもたせる。

外観バース

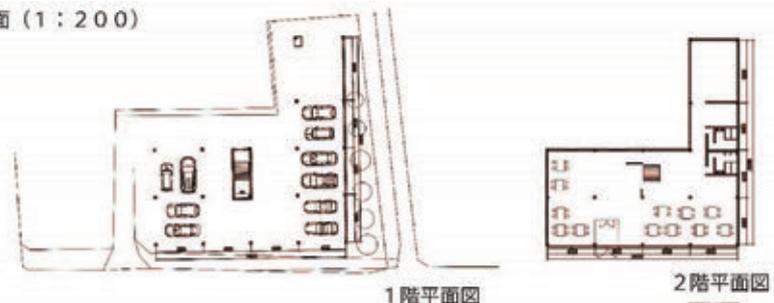


正面ファサードを全面ガラス張りとし、多くの客席から眺望を楽しめるようにする。また入口部分に小空間を設けることで、車道から遠ざけ、静寂によって華やかな雰囲気を作る。

客席席から港を眺める



図面（1：200）



1階はピロティ下に10台分の駐車スペースをもうけ、駐車場から直接アクセスできるようにした

2階、3階に客席を設け、できる限り間仕切り壁をなくすことで視線の遮りをなくし、どの席からも眺望を楽しめるようにする。

店内を広く感じられるように、3階に吹き抜けを設ける
また港側にカウンター席を設け、眺望をより楽しめる空間にする



SB-2 プロジェクト：路地でつながる白子の町

熊谷尚輝・近藤研人・山下祐輝・安井翔哉

MINATOレストラン～白子港を一望する～

設計趣旨

街道と港に挟まれているという立地を活かし、街道側と港側それぞれの個性を持った二面性がある集合住宅を設計する。両サイドの町並みにデザイン面でなじませると同時に、機能的にも地域になじませる工夫を加える。また、今回の計画の路地にも面しているので、路地をより使いやすい空間にするための役割を持たせる。



SB-2 プロジェクト：路地でつながる白子の町

2つの個性を持つ集合住宅

熊谷尚輝・近藤研人・山下祐輝・安井翔哉





集合住宅

白子B地区「Shiroko Landscape Designers」

唐澤冴佳・竹内貴洋・中島慶介



私たちは、実地調査を通じて白子の持つ資源と問題点を調査し分析しました。その結果、白子のまちづくりを「減災」、「景観」、「賑わい」を三本柱として計画しました。「減災」の取り組みとして伊勢型紙を用いた誘導灯の設置、防災ガイドラインの設置、「景観」の取り組みとして景観ガイドラインの設置、緑地の整備、「賑わい」の取り組みとして堤防沿いの歩道の整備と、そこでの朝市開催を計画しました。

中でも力を入れたのが、夜間時の避難のための目印となる伊勢型紙を用いた誘導灯の案です。様々な場所に設置出来るように四つの形態を考えました。伊勢型紙を用いる事で、誘導灯としてだけではなく、あたたかい雰囲気のマちなみを作り出します。

建築計画としては、伊勢街道と堤防に面する集合住宅をまち全体へと広がるアクティビティの始点として計画しました。また、白子湾を臨むレストランはまちのコミュニティが生まれ、白子を知ってもらうきっかけとなる場所として計画しました。

Status report

SHIROKO まち PROJECT

<計画敷地>

<敷地の特徴>

本敷地は、白子駅と白子港に挟まれた土地である。計画敷地内には、海産加工品の有名人であるマルカツや、地元の水産品の伊勢型紙の資料館や地域のまちかど博物館として登録されている「語りい館よこた」などがあり、この地域の文化、食の中心地といえる。一方で、地震時には津波を中心に津波の被害が考えられ、津波の対策も非常に重要な地域である。

龍源寺の前の空地 寺の前で公共的な利用が可能

夜、路地はとて も暗くなってしまっている

商店街 営業している 店舗は少ない

商店街では、道路を照らす照明はあるもののアーケードは暗くなっている

旧伊勢街道のまちなみ 歴史的な建物と新しく建てられた建物が混在する

旧伊勢街道は夜間でも比較的明るく整備されている

津波対策が行われている住宅 ビロディで建物を持ち上げている

旧団地 現在は空き家とみられる水道

道路と道路をつなぐ縦に長い駐車スペース

(左側) 堤防からの海の眺め (右側) 堤防の景色

SHIROKO まち PROJECT

Siroko Landscape Designers 唐沢冨佳 竹内貴洋 中島慶介

30年後の白子 30 years later Shiroko

Disaster mitigation

減災

Urban landscape

景観

Lively scene

賑わい

空地を緑地に 龍源寺の前の空地を町の人々が集まれる緑地とする

夜間の路地 暗い路地に灯りをつけることで、あたたかい雰囲気空間になる。

夜間の商店街 吊り下げた灯りは歩く人だけでなく、まちも照らし出す。

夜間の旧東海道 軒先に伊勢型紙を使った灯りが街を照らしている

空き家の活用と灯り 空き家を皆が集まれる場所にし、灯りをとすることで夜間に安心して歩ける街づくりを行う。

津波時の浸水の危険が高いため、駐車スペースとする 既存の駐車場を集約し、朝市等のイベント時の駐車場を兼ねる

朝市の開催 白子の街の活性化のきっかけに

集合住宅 「街の始点」 港沿いと旧東海道沿いの2つの道に面している

堤防沿いの「レストランしおかぜ」 まちの新たな顔となる建物である。

SHIROKO まち PROJECT

Siroko Landscape Designers 唐沢冨佳 竹内貴洋 中島慶介

景観ガイドライン

景観

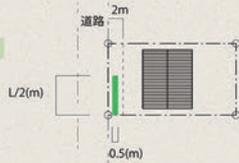
A. 道路側緑化率の決定

道路側に緑地を設けることによる街並みの向上を目的としたもの。

<概要>

道路境界より2m以内の位置に敷地間口の長さ(m)×0.5(m)×1/2以上の緑化を義務付ける。

ただし、歴史的建造物、特に町屋建築においてはプランター類の緑被面積を水平投影面積と同等のものとし、緩和する。



B. 緑地の整備

あき地を積極的に緑地へ変えていく。特に、龍源寺の前の公共性の高い場所や住宅の密集地などのあき地を緑地にすることで、よりよい住環境を作り出す。



SHIROKO まち PROJECT

Siroko Landscape Designers

唐沢牙佳 竹内貴洋 中島慶介

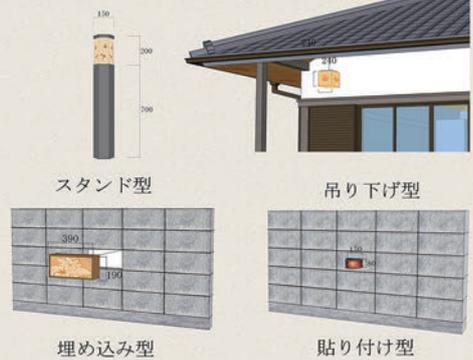
伊勢型紙を使った誘導灯

減災 景観



伊勢型紙を使った照明の例

目印となるだけでなく、雰囲気の良い街並みを演出する。



1. 津波の被害の受けにくい地域

青の線より内陸側に行けば安全である。市では、白子本町の住民は、白子中学校、旭が丘小学校、市立体育館を津波字の避難場所として推奨している。

2. 安全に避難するには

白子地区の避難経路は上記のようになる。よって、この避難路を夜間時にも把握するための光を提案する。

3. 光の配置と効果

主要な道だけでなく、暗い路地にも灯をつける。常にもっているため町の減災の意識の向上や防災にも役に立つ。

SHIROKO まち PROJECT

Siroko Landscape Designers

唐沢牙佳 竹内貴洋 中島慶介

防災ガイドライン

減災

空き家・空き地と津波浸水範囲



津波最大浸水深さ

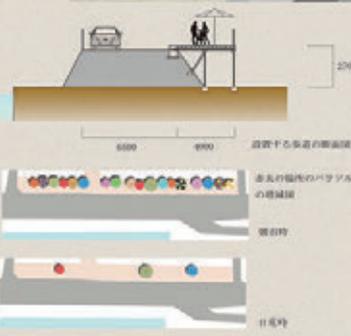
3.0~4.0m
2.0~3.0m
1.0~2.0m
0.5~1.0m
~0.5m

このアーチの右側は、最悪の想定津波の高さ(平成26年3月に地防衛官署発表)をもとに作成したものである。これを模式的に示したのが左図であり、実際のゾーンは下記表を参照。
資料①「津波ハザードマップ」(国土交通省)

- 津波浸水域の高さが2~3m以上(薄青色のゾーンまたは薄赤色のゾーン)の地域に関しては居住を推奨せず、堤防沿いに歩道を増設(黄色の丸)、交差点付近に駐車場(青丸)をつくる。
- 2m以上の浸水が予想される地域の住人には、より安全な地域に転居してもらう。そのために、建設予定の集合住宅への入居優先権や、比較的安全なゾーンにある空き家への入居や白子地区の空き地の購入のための補助金制度を設定する。

歩道の整備

賑わい 景観

海の堤防沿いは海産物のマルカツ、建設予定のレストランなどが面しており、賑わいの拠点である。しかし、現状の堤防は車通りが多く歩道がないため、歩行者にとって非常に危険である。そこで、堤防における歩道の増設を提案する。また、左上の図の赤丸の部分では歩道の道幅を4mとり、賑わいのきっかけとなる朝市を行う。パズルは常に設置してあるものと、朝市用の一時的なものを用意し、日常時も朝市時の賑わいがにじみ出る雰囲気を出す。

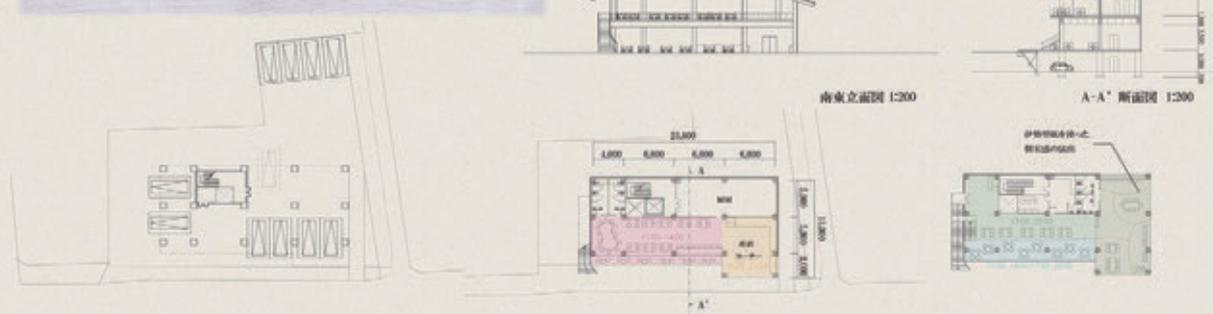
SHIROKO まち PROJECT

Siroko Landscape Designers 唐沢冨佳 竹内貴洋 中島慶介

SB-1 プロジェクト「白子港沿いの地産地消レストラン」

レストラン しおかぜ

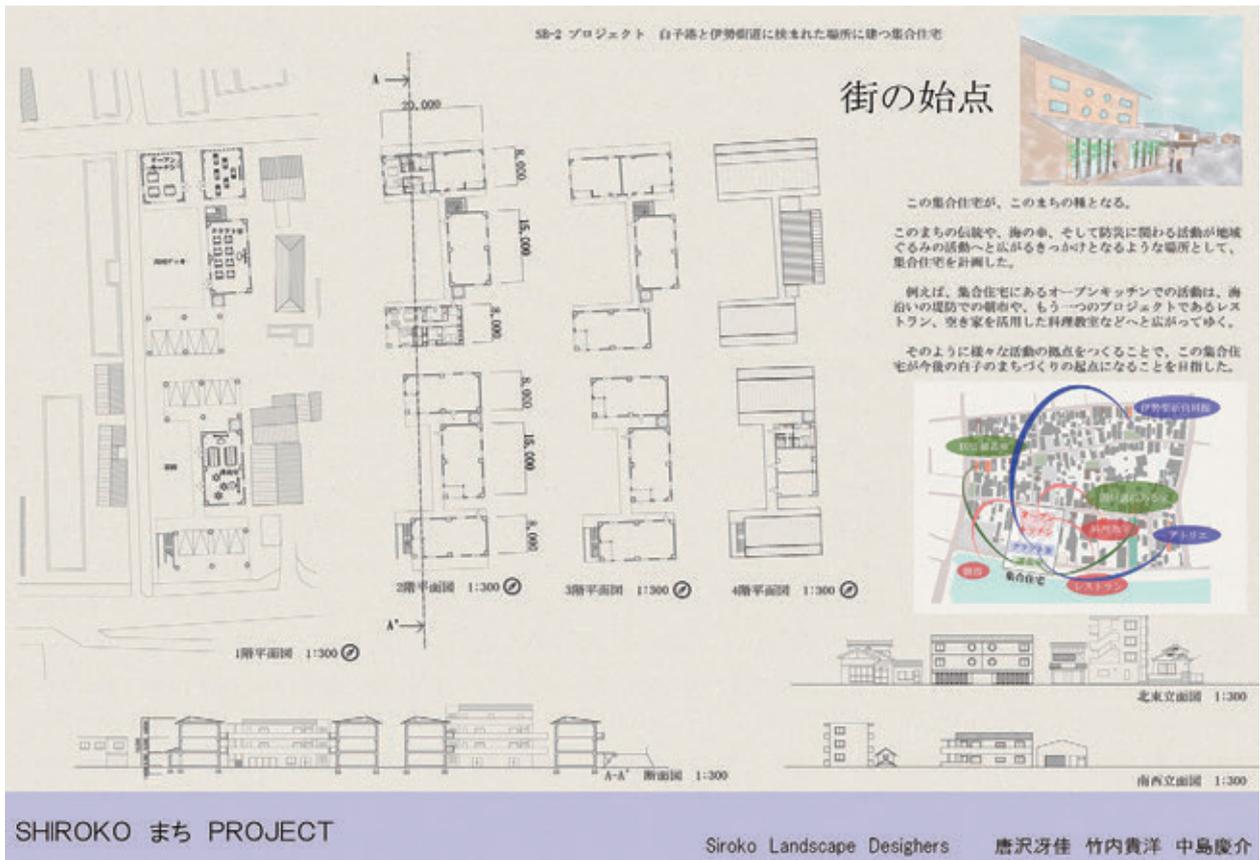
白子の新しいレストランは まちの顔となります。白子の古き良きコミュニティは徐々に消え去り、まちはかわりつつあります。そこで、テラスを堤防沿いと3階部分に設けることで、このまちの人たちが気軽に立ち寄りコミュニティが育まれるような雰囲気を作りました。また、昼と夜で営業する箇所を変えたり、海を眺望できる席と、白子のまちを眺望できる席を設けたりすることで、来るたびに異なる体験が出来るレストランにしました。

1階平面図 1:200		2階平面図 1:200		3階平面図 1:200	
レストラン	80㎡	レストラン	80㎡	レストラン	80㎡
茶室	60㎡	茶室	60㎡	テラス席	35.6㎡
その他	43㎡	その他	32.8㎡	その他	38㎡
計	183.0㎡	計	173.6㎡	計	153.6㎡

SHIROKO まち PROJECT

Siroko Landscape Designers 唐沢冨佳 竹内貴洋 中島慶介



(5) 江島 A 地区



江島 A 地区「SeaSide」 職人と人をつなぐまち



瀧本颯・濱口葉・松島孝侑

近鉄白子駅から海側に進んだ場所に位置する江島 A 地区は、伊勢街道沿いに古い建物と新しい建物が乱雑に並び、多くの駐車場が街道に面しているため町並みが崩れている。また昔ながらの町家を中心に空き家となっている建物が多く、どこか物寂しさを感じる。そこで本計画では2つの観点から地区を整備し、にぎわいのあるまちづくりを行う。

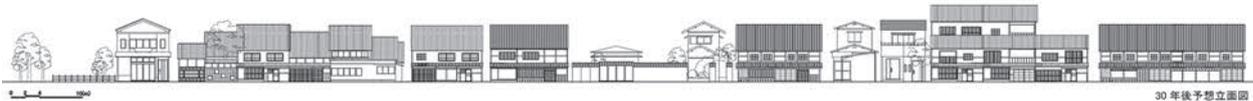
○ものづくりのまちとして活性化

ソフト面からのにぎわいづくり策として、江島 A 地区に手仕事や芸術などの技術を持った職人を呼び込む。その職人が地区で店舗や工房を開き、体験教室を行うことでものづくりのまちとして地域外からも人が訪れる。

○地域内の性格を生かす

伊勢街道沿いのにぎやかな雰囲気と、路地へ入った際の落ち着いた雰囲気をまちづくりに反映させる。伊勢街道沿いの店舗内で活動する様子が街道から見えるようにすることで、にぎやかさを感じる。駐車場は海側に集約し、街道の交通量を少なくする。

まちの30年後の様子



EAゾーン 将来の江島A地区
「職人と人をつなぐまち」

瀧本颯・濱口葉・松島孝侑

まちの現在の様子

活用したいもの

- 街道から店内の様子が見えにぎやかさを感じる→1
- 縁石が残っている街道沿いの町家→2
- 旧旅館を改修したカフェ&雑貨店→2
- 伊勢街道に向けオープンスペースを設けて開いた事務所→2
- 街道から続く路地は細く探検しているような気分になる→3



改善したいもの

- 街道に面した駐車場が多く町並みが崩れている→1
- 街道は仕入れのトラックなども通り交通量が多い→1
- 草が生え荒れた空き地→2
- 昼間でも人通りが少なく物寂しい雰囲気のある路地→3
- 道幅が狭く路上駐車もあり危険→3

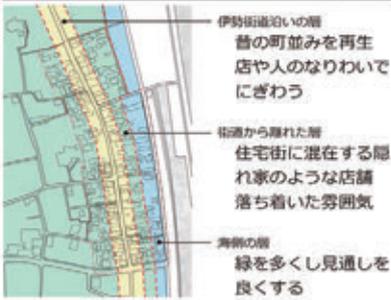


EAゾーン
現状分析

瀧本颯・濱口葉・松島孝侑

整備目標・計画

1 南北方向に3種類の層に分ける



整備計画

伊勢街道沿いの層

既存の町家を体験施設や店舗などとして活用する。
内部の古びやかな活動の様子を街道を多く人が感じられるようファサードに大きな開口を開ける。
会館は原などをイベント広場に転用する。
集合住宅の一部を店舗とする。

街道から離れた層

既存の空き家を改修し、閑れ家のような店舗やギャラリーなどとする。
訪れる人は店を探しながら路地を歩く。
空き地を屋外作品展示広場として活用する。

海岸の層

津路の眺望を考慮し、民家を建て替えて緑に併って街道側に移動する。
古い土物を地域内の店舗等の駐車場とする。

2 点在する魅力資源を活用する



整備計画

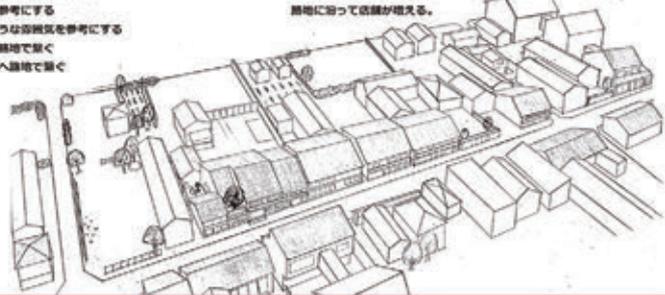
町家—もともとはある形を生かした整備をする
体験教室や店舗など内部を利用できる施設として活用する
細線のある町家—個性的な制作体験や展示を行う
清水屋—街道への開き方を参考にする
ワチダカフェ—閑れ家のような雰囲気や参考にする
伊勢街道と路地で繋ぐ
善徳寺—伊勢街道から参道へ路地で繋ぐ

3 伊勢街道と魅力資源を繋ぐ



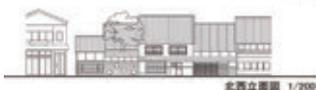
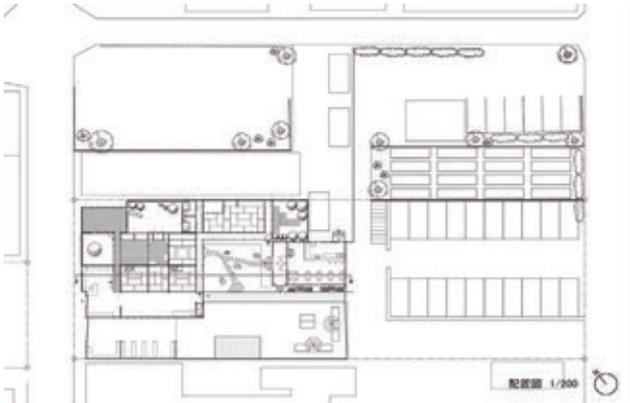
整備計画

伊勢街道から地域内外の魅力資源へと路地で繋ぐ。
街道と魅力資源や店舗とを繋ぐ路地と、普段住人が主に利用する路地は舗装を区別する。
路地に沿って店舗が建ち、



EAゾーン：活用方策の提案
「街道と路地から広がる」

瀧本楓・濱口葉・松島孝侑



伊達家活用方針

地域の体験教室や店舗の中心施設として活用する。
地域内にある店舗の物品を展示・販売する雑貨屋、昔の生活体験を行える体験施設、資材施設、土蔵を改修したカフェを整備する。イベント時などは駐車場の境界になっている柵を取り外すことが可能で、屋外が直から駐車場にかけて展示。



EA-1プロジェクト：廻船問屋の空き家伊達家を歴史交流拠点に
「過去と現在を繋ぐ」

瀧本楓・濱口葉・松島孝侑



E A-2 プロジェクト：伊勢街道沿いの建替えモデルの設計
「うなぎの寝床における集合住宅のあり方」
 瀧本 颯、濱口 葉、松島 孝侑



廻船問屋の空き家伊達家を拠点に歴史交流拠点に



伊勢街道沿いの建替えモデル

(6) 江島 B 地区



江島 B 地区「はとぽっぽ」 街のひろば、広場のまち



青山瑶子・平山進也・村松研登

かつての江島は伊勢街道として栄えていたが、現在の江島にはその華やかさが薄れている。街道沿いの町並みも崩れ、かつての雰囲気を感じるのは難しい。

そこで、私たちは旧伊勢街道沿いの2つの十字路に広場を整備し、街全体と連携して、失われつつある江島の魅力を引き出したいと考えた。江島の歴史をふまえながら、住民にとって憩いの場所となる広場を、また、通りがかった人が思わず足を止めたくなるような街を計画した。

八百彦広場は、八百彦を中心とする交差点を人々が安全に買い物し、くつろげるような賑やかな場所になるように計画した。この広場は、朝市と関連づけたイベントや、空地と連携しながら食と農をきっかけにした地区の人々の交わりを生む。

菩薩広場は、かつて「北の端地藏」とも呼ばれた六体地藏をこの地区の歴史的に重要なものとしてとらえ、六体地藏を中心とするかつての街道沿いの雰囲気が感じられる場所となるように計画した。この広場は、普段は集会所や駄菓子屋を訪れた人々が休むことができ、祭りの際には屋台が並び山車が飾られ、江島の歴史を感じることができる。

これらの広場を様々な方法を用いてつなげ、街が一体となるように計画した。

江島の今

◇屋根伏



◇a-a' 街道沿い立面図



江島ゾーン
「街のひろば、広場のまち」

青山淳子・平山道也・村松研登

◇計画敷地



◇江島のイベント



◇現状の問題

住民の連帯感が弱まり
行事が縮小

伊勢街道の雰囲気
薄れている

交通量が多く歩行者に
とって居心地が悪い

人口流出に伴う
空き地、空き家の増加

街を繋げる手法

◇街道の整備(1)

光に照らされる旧伊勢街道

広場から広場を誘導するように、街道沿いに街灯を設置する。柱間は街道の装飾として、夜になると広場から広場を光でつなぐ。

◇街道の整備(2)

かつての街並みを再生する

街道沿いは道に面する駐車場が多く、街並は崩れている。そのような場所に、緑を設けることで街並に統一感をもたせかつての街道の雰囲気を感じることができる。

◇空き地の活用

にぎわいを蘇らせる

八百草奥の空き地では地域の子供たちを対象に遊具を整備する。それを大人がサポートすることで地域の人々の交流を新たに生む。街道沿いの空き地はイベント広場として整備し、イベントを開催することで住民などが集まりかつての街道の賑わいを取り戻す。

◇空き家の活用

街並みの「穴」を埋める

現在、空き家は街道沿いに増加しており、街道の街並みがぐずれている要因となっている。そこで、空き家をリノベーションし、新たにそこに住んでもらう。それにより、空き家による街並みの「穴」をうめることで、かつての街道の雰囲気を蘇らせたい。

◇30年後の地区の様子



◇街道沿いの整備計画



江島ゾーン
「街のひろば、広場のまち」

青山淳子・平山道也・村松研登

食と農を通して人々がつながる

昔ながらの八百屋さん、八百彦がある場所であり、買い物に訪れた地域の人々がお互にきかけを生む広場を設計する。首段は、買い物客や裏の学童農園にやってきた住民の休憩スペースとなり、朝市の際には、イベント広場でお野菜カフェ主催のビュッフェが催され賑わう。

◇アイストップ

クランクする交差点はこの街道の特徴であり、アイストップにあたる場所に八百彦、休憩スペースをおいた。

◇街道のクランクを際立たせる

広場を2種類の石畳にし、街道のクランクが視覚的に際立つよう工夫した。

◇朝市の際の広場の活用

八百彦のある広場にはイベントスペースを作った。また、その向かいの広場には木陰で休憩できるスペースを作った。



平面図 1/200



東側立面図 1/200

Y-Y 断面図 1/200

EB-1 プロジェクト：道路のクランク付近でまちかど広場を核とした建替え
「街のひろは、広場のまち」
青山理子・平山達也・村松研登



八百彦広場

菩薩広場

かつての街道の趣を感じる

六体地藏菩薩のある由緒ある場所であり、その歴史が感じられるような広場を設計する。普段は住民の憩いの場所となり、お祭りの際には広場が屋台や出し物で賑わう。

◇アイストップ

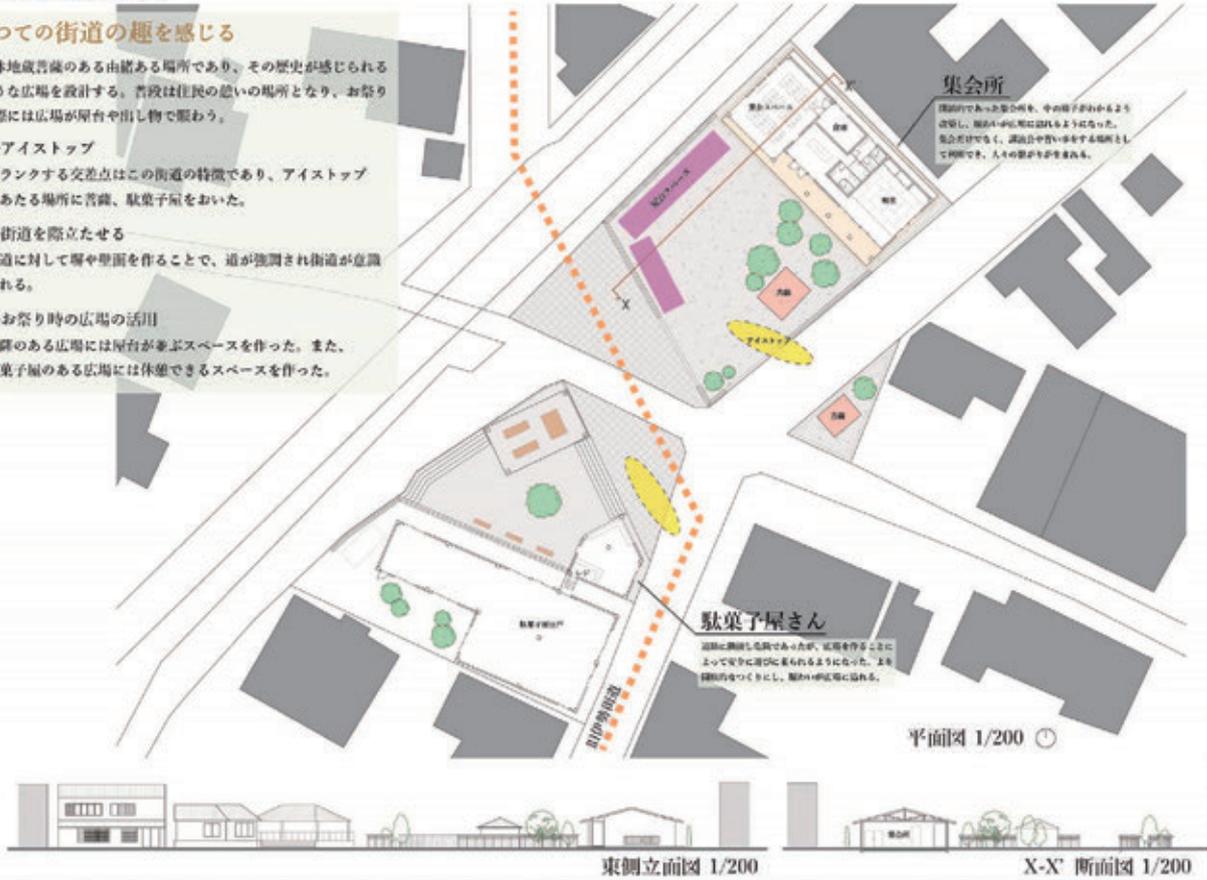
クラックする交差点はこの街道の特徴であり、アイストップにあたる場所に菩薩、駄菓子屋を置いた。

◇街道を際立たせる

街道に対して壁や塀面を作ることで、道が強調され街道が意識される。

◇お祭り時の広場の活用

菩薩のある広場には屋台が並ぶスペースを作った。また、駄菓子屋のある広場には休憩できるスペースを作った。



BB-2プロジェクト：六体地藏前のまちかど広場の整備
「街のひろば、広場のまち」

青山陽子・平山達也・村松崇登



菩薩広場